

【研究成果の利用促進の取組み(1)】

| 法人名 | 研究成果データベースや機関リポジトリへ 早期かつ確実に登録を促すための取組・工夫 |
|-------------------|---|
| 情報通信研究機構 | 助成事業者が成果を発表又は公開するときは、事前に外部発表投稿票(指定様式)を機構に提出することとしている。また、助成事業者が産業財産権の出願を行ったときは一定期間内に出願通知書を機構に提出することとしており、出願後状況のほか、知的財産権の実施等があった場合にも指定様式により遅滞なく機構に報告する等の取組を行っている。 |
| 科学技術振興機構 | 創出された研究開発成果の早期かつ確実に登録を促すための取組みとして、研究実施者と連絡を密にとり、報告書などの提出を受けるほか、研究現場の訪問等を行っている。 取組の一例として、戦略的創造研究推進事業の研究成果情報(報告書や知的財産権等)については、事務処理要領にて機構が運用・公開するJ-STORE(研究成果総合展開データベース http://jstore.jst.go.jp/)への登録を促している。 また、バイオインフォマティクス推進センター事業等では、年次成果報告書の提出にあわせ、ウェブ掲載用成果報告書の提出を求めるなど、確実に登録を行うための工夫をしている。 |
| 日本学術振興会 | 科学研究費助成事業では、毎年度の研究成果について、その具体的内容、意義、重要性等を、できるだけ分かりやすく記述した研究実績の概要や年度内に発表した研究論文等を記載した研究実績報告書の提出を義務付けている。また、研究期間内に得られた研究成果について、研究期間終了後に研究成果報告書の提出を義務付けている。 |
| 医薬基盤研究所 | 基礎研究推進事業では、平成8年から現在までに研究者から提出された様々な文書(応募書類、研究計画書、研究成果報告書、評価用報告書等)についてデータベース化を行っている。なお、応募書類等は秘密保持の観点から非公開としているが、総括研究代表者名、研究プロジェクト名、研究概要については、ホームページ上で公開している。 実用化研究支援事業においては、研究を実施する企業名、課題名とその概要をホームページ上で公開している。 希少疾病用医薬品等開発振興事業では、助成金を交付した希少疾病用医薬品及び希少疾病用医療機器、並びにそれらの開発企業、助成期間、交付総額等をデータベースとして整備し、ホームページ上で公開している。 |
| 農業・食品産業技術総合研究機構 | 生研センターでは、機関リポジトリに登録を促すための取組等は現時点で行っていない。 |
| 新エネルギー・産業技術総合開発機構 | 成果報告書の電子データをホームページ上にアップし、成果報告書の検索及びその全文ダウンロードを可能とするデータベース(約32,000冊強)を構築している。(平成22年度のダウンロード実績は、262,784件) ・NEDOの行う研究開発の位置付け等をまとめた研究分野ごとの「技術戦略マップ」を、ホームページ上で公開し、その全文をダウンロードを可能とするデータベースを構築している。 ・NEDO保有特許等の検索及び特許公報等のダウンロードが行えるNEDO特許情報提供システムを、ホームページ上に整備している。 ・その他、例えば「NEDO再生可能エネルギー白書」、「省エネルギー技術戦略2011」、「風況マップ」、「日本型風力発電ガイドライン」、「NEDO特許情報提供システム」等、多くのデータベースをホームページ上で公開している。 |
| 石油天然ガス・金属鉱物資源機構 | 研究開発成果が出た段階で、案件の担当者が速やかに論文・成果物データベースに登録している。 |

【研究成果の利用促進の取組み(2)】

| | |
|-------------------|--|
| 法人名 | 登録・公開された研究開発成果の流通や活用を促すための取組・工夫 |
| 情報通信研究機構 | 助成事業者による研究開発成果については成果報告書としてとりまとめ、機構のウェブで公開しているほか、成果報告書のCD-ROMを関係機関に配布する等、成果の流通や活用を促している。また、助成事業者に対しては、事業終了後に行う企業化調査(助成事業終了後5年間について実施)の機会を通じて、事業成果の積極的な活用を促す等の取組を行っている。 |
| 科学技術振興機構 | 時事性のある研究成果や社会的インパクトのある特出した研究成果をプレスリリースや機構のWebサイトを活用し、アーカイブとともに公表している。また注目すべき研究成果や研究実施者の紹介等について解説を加えた記事を作成し、機構の広報誌「JST News」等により広く周知している。 特許の発明者である研究者自らが、実用化を展望した新技術の説明を企業関係者に向けて行う「新技術説明会」を実施し、研究成果の社会還元への促進に取り組んでいる。 事業ウェブサイト等に年度ごとの進捗状況報告の掲載を実施している。 また、研究課題の事後評価の一環として行う成果報告会の要旨集をウェブサイトで公開している。 |
| 日本学術振興会 | 科学研究費助成事業では、毎年度の研究成果及び研究期間内の研究成果について、積極的に活用されるように、その具体的内容、意義、重要性等を、できるだけ分かりやすく記述した研究実績の概要等を提出させ、国立情報学研究所のデータベースで広く一般に無料で公開している。また、このデータベースでは、研究分野ごとの検索のほか、研究成果として報告のあった研究論文や産業財産権についての検索も可能となっている。 |
| 医薬基盤研究所 | 基礎研究推進事業では、毎年開催している「彩都産学官連携シンポジウム」の中で研究成果発表会を実施するとともに、研究上の秘密に配慮しつつ、各年度毎に得られた研究成果をホームページ上で公開するなど、未利用成果の積極的な活用に向けた取組を行っている。また、平成23年度は「基礎研究推進事業橋渡しセミナー(産学交流セミナー)」を開催し、採択課題と製薬企業やベンチャー企業等とのマッチングの実施するなど産学連携に向けた取り組みも積極的に行っている。 希少疾病用医薬品等開発振興事業において、助成金を交付した希少疾病用医薬品及び希少疾病用医療機器が製造販売承認を受けた、すなわち臨床現場に届けられるに際し、データベースを更新し、当該情報をホームページ上で公開している。 |
| 農業・食品産業技術総合研究機構 | 生研センターでは、機関リポジトリに登録を促すための取組等は現時点で行っていない。 |
| 新エネルギー・産業技術総合開発機構 | 研究開発期間中のみならず、終了後も、その成果の実用化に向けて研究開発の実施者を始め、幅広く産業界等に働きかけを行うとともに、研究開発成果をより迅速に社会に繋げられるよう、例えば、循環社会構築型光触媒産業創成プロジェクト等においては、各ステップ毎に複数社にサンプル提供を行い、実環境下でのサンプル試験を行うとともに、その結果を研究開発にフィードバックを掛ける等、研究開発終了後の出口ターゲット明確に絞りつつ、その成果の広がりが得られるようなプロジェクトマネジメントを実施している。さらにNEDO事業による成果の最大化を図ることを目的に、サンプルマッチングの制度を開始した。 |
| 石油天然ガス・金属鉱物資源機構 | 研究開発成果は本機構の目的である資源権益獲得につなげていくために他ツールと組み合わせて活用している。 |

| 【社会・国民を対象とした科学・技術コミュニケーション活動の取組み】 | |
|-------------------------------------|---|
| 【法人名】資金配分制度名 | 科学・技術コミュニケーションを促進するための取組 |
| 【NICT】新たな通信・放送事業開拓のための先進的技術開発支援 | 事後評価において、科学・技術コミュニケーション活動については特記事項として評価することとしている。 |
| 【NICT】民間基盤技術研究促進制度 | 事後評価において、科学・技術コミュニケーション活動については特記事項として評価することとしている。なお、平成22年度より新規公募を行わないこととしており、平成23年度にてすべての委託研究は終了する。 |
| 【JST】戦略的創造研究推進事業(社会技術研究開発事業除く) | 研究成果を積極的に分かりやすく紹介するために、シンポジウム開催、企画展等での紹介が可能な成果についての支出も認めている。研究費に占めるアウトリーチ活動費の上限は特に設定していない。また、JSTも公開シンポジウムを開催するなど研究成果の情報発信を行っている。 |
| 【JST】先端的低炭素化技術開発事業 | 研究成果を積極的に分かりやすく紹介するために、シンポジウム開催、企画展等での紹介が可能な成果についての支出も認めている。研究費に占めるアウトリーチ活動費の上限は特に設定していない。 |
| 【JST】社会技術研究開発事業 | 研究成果を積極的に分かりやすく紹介するために、シンポジウム開催、企画展等での紹介が可能な成果についての支出も認めている。研究費に占めるアウトリーチ活動費の上限は特に設定していない。機構におけるアウトリーチ活動の一環として、ホームページに「研究者へ直撃取材!」と銘打った研究者訪問取材記事を作成掲載するなどの取組を実施している。 |
| 【JST】産学イノベーション加速事業 | 今後、研究成果を積極的に分かりやすく紹介するために、シンポジウム開催等の支出を認めることを検討中である。 |
| 【JST】研究成果最適展開支援事業 | 同上 |
| 【JST】バイオフィーマティクス推進センター事業 | 研究成果を積極的に分かりやすく紹介するために、シンポジウム開催等の支出を認めている。 |
| 【JST】戦略国際科学技術協力推進事業(研究交流型) | 同上 |
| 【JST】戦略国際科学技術協力推進事業(共同研究型) | 同上 |
| 【JST】地球規模課題対応国際科学技術協力事業 | 同上 |
| 【JST】企業研究者活用型基礎研究推進事業 | 平成21年度補正予算により措置された事業であり、平成22年度新規採択がないため、今後の検討予定はなし。 |
| 【JST】高度研究人材活用促進事業 | 同上 |
| 【JSPS】科学研究費補助金(特別推進研究) | 【科学研究費助成事業で共通】 研究期間終了後に作成を求めている研究成果報告書において、アウトリーチ活動情報に関する記載を求めるなど、科学研究費助成事業による成果を積極的に社会・国民に発信するよう促している。 また、比較的高額な研究費を受ける特別推進研究などの研究進捗評価や、新学術領域研究(研究領域提案型)などの中間評価において「研究内容、研究成果の積極的な公表、普及に努めているか」という着眼点を設けている。 そのほか、日本学術振興会においては、科学研究費助成事業による最新の研究成果を、小・中学生や高校生に体験・実験・講演を通じて分かりやすく紹介する「ひらめき☆ときめきサイエンス」プログラムを実施しており、科学・技術コミュニケーションの促進に活用されている。 |
| 【JSPS】科学研究費補助金(基盤研究(S)) | 【科学研究費助成事業で共通】 同上 |
| 【JSPS】科学研究費補助金(基盤研究(A)) | 【科学研究費助成事業で共通】 同上 |
| 【JSPS】科学研究費補助金(基盤研究(B)) | 【科学研究費助成事業で共通】 同上 |
| 【JSPS】科学研究費補助金(基盤研究(C)) | 【科学研究費助成事業で共通】 同上 |
| 【JSPS】科学研究費補助金(挑戦的萌芽研究) | 【科学研究費助成事業で共通】 同上 |
| 【JSPS】科学研究費補助金(若手研究(S)) | 【科学研究費助成事業で共通】 同上 |
| 【JSPS】科学研究費補助金(若手研究(A)) | 【科学研究費助成事業で共通】 同上 |
| 【JSPS】科学研究費補助金(若手研究(B)) | 【科学研究費助成事業で共通】 同上 |
| 【JSPS】科学研究費補助金(研究活動スタート支援) | 【科学研究費助成事業で共通】 同上 |
| 【JSPS】科学研究費補助金(奨励研究) | 【科学研究費助成事業で共通】 同上 |
| 【JSPS】科学研究費補助金(特別研究員奨励費) | 【科学研究費助成事業で共通】 同上 |
| 【JSPS】科学研究費補助金(学術創成研究費) | 【科学研究費助成事業で共通】 同上 |
| 【JSPS】最先端研究開発支援プログラム | 本プログラムの中心研究者には総合科学技術会議により毎年度1回以上「国民との科学技術対話」を行うことが義務付けられており、実施に必要な経費は助成金から支出可能としている。これに加え、一般国民に向けてプログラムの研究内容および研究成果を公開するシンポジウムに対し、最先端研究開発戦略的補助金を交付して助成を行った。 |
| 【JSPS】最先端・次世代研究開発支援プログラム | 間接経費を含めた研究費の年間平均配分額が3万円以上である場合は、総合科学技術会議により、その研究活動の内容や成果を社会・国民に対して分かりやすく説明することが義務づけられており、実施に必要な経費は助成金から支出可能としている。 |
| 【NIBIO】保健医療分野における基礎研究推進事業 | 資金配分先の科学・技術コミュニケーション活動に役立てていただくよう、本事業の研究成果に関する冊子を毎年作成し配布している。 |
| 【NIBIO】医薬品・医療機器実用化研究支援事業 | — |
| 【NIBIO】希少疾病用医薬品等試験研究助成金 | — |
| 【NARO】イノベーション創出基礎的研究推進事業 | 平成23年度の公募より、アウトリーチ活動の実施を評価項目として追加した。また、年度末の単年度評価等においても評価項目として追加予定。 |
| 【NARO】民間実用化研究促進事業 | 成果の公開、普及に努めるよう公募要領に記載。 |
| 【NEDO】ナショナルプロジェクト | 事業成果の普及やマッチング及び広報等を目的として、各種展示会やシンポジウム等の開催または出展を行っている。 また、平成22年度には、配分する直接経費の一部を「国民との科学・技術対話」(アウトリーチ活動)に充当できる仕組みの導入を進めた。なお、平成23年度からは、1件当たり年間3,000万円以上の公的研究費の配分を受ける研究者等に対して「国民との科学・技術対話」に積極的に取り組むよう公募要領等に記載している。 |
| 【NEDO】実用化・企業化促進事業(競争的資金制度を除く) | 同上 |
| 【NEDO】実用化・企業化促進事業(大学発事業創出実用化研究開発事業) | 同上 |
| 【NEDO】実用化・企業化促進事業(省エネルギー革新技術開発事業) | 同上 |
| 【NEDO】技術シーズの育成事業(産業技術研究助成事業) | 同上 |
| 【JOGMEC】石油天然ガス開発促進型大型研究 | 「国民との科学・技術対話」促進について、省庁や他配分機関の実施内容を参考としながら、JOGMECとしての取り組みを検討する予定。 |
| 【JOGMEC】石油天然ガス開発促進型特別研究 | 同上 |